

新古今 歳時記

平成 27年12月

戦前の歳時記の様子を紹介した故林鼓浪の連載をもとに、昔懐かしい行事など、現在と比べながら、話題のイベントを紹介していきたい。
早いもので、今年最後の月となり、ごことも締め括りとして、仕事や歳時記も普段より慌しくなる時期。林鼓浪の頃も同じようで、時代が変わっても日本の年末はそのままのようだ。



写真：大麻町ジングルベルマラソン大会

月
新暦・旧暦

雑節・祝日

祭・イベント

季節の風物詩

13 日	12 土	11 金	10 木	9 水	8 火	7 月	6 日	5 土	4 金	3 木	2 水	1 火
みずの と い 一白先勝	みずの え いぬ 二黒赤口	かの と とり 三碧大安	かの え さる 四緑友引	つちの と ひつじ 五黄先勝	つちの え うま 六白赤口	ひのと 七赤大安	ひの え たつ 八白仏滅	きの と う 九紫先負	きの え とら 一白友引	みずの と うし 二黒先勝	みずの え ね 三碧赤口	かの と い 四緑大安
旧 11.3	旧 11.2	旧 11.1	旧 10.29	旧 10.28	旧 10.27	旧 10.26	旧 10.25	旧 10.24	旧 10.23	旧 10.22	旧 10.21	旧 10.20

歳末助け合い運動
三りんぼう

カレンダーの日
障害者週間
下弦

世界人権デー

新月

5日
池田 冬のオブジェ
(三好市各所)



11月25日
Happy Xmas in
(あすたむらじこ)

橘始黄
たちははじめてきばむ

大雪

閉塞成冬
そらなむくふゆとなる

熊蟄穴
くまめなにくもる

※掲載のイベント情報は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

昔 64年前の連載より

いよいよ年の瀬が押しつまつてゆく十二月になると、徳島市内ではもう歳暮の大売出しが始まる。誓文弘と同じように新町から籠屋町の目抜き通りはつねと違った景気で人の波を打たせるが、かつては陣笠を被ったひろめ屋が馬に乗って町まわりをし、旗やノボリで大がかりな宣伝をやったものである。専門店街が京の顔見世観劇招待とあるのも、従来の福袋と景物の趣向が変わったわけだ。



さし絵：林鼓浪、12月の風景

思い出す。祭神は大目一の神といつて、本県では名西郡高志村に鎮座する。この由来をきくと源三位頼政が紫宸殿で又工退治をした時、一度に御灯しが消えたがたつたつだけ消えない金燈籠があった。それはこの村の鍔物師が作

つて献上したものだといつて特に有名になり、阿波の鍛冶屋さんはこの神を崇め県下に分霊が各所にある。

それでふいごを扱う家ではせいに業を休み火の玉にかたどりみかんやこしじを投げるので、子供はむしよつに喜んで拾ったものである。

十二月の風習からいって、まず廿三日が冬至、この日にとった水を一度お荒神に供えて、家の周囲にまくと火の用心になる。なすびがらをたたくのも、防火のまじない。初なりの南瓜を食すると中風にかからぬなど、いろいろ昔からの伝承がいまだに山村の俗信になつてゐる。

話は変わるが極月に入ると十夜吟といつて、俳句に親しむ人たちが寺に最終の十日目にはめいめいが食料を隠して持ち寄り、一つのナベに投げこむヤミ汁の会がある。この催しには、むしたかぶらにミツをつけたう口吹き調味料がきまつた献立だった。現在忘年俳句会の席上でも、再興してよいと思う。クリスマスもすでに相変わらず料亭では年忘れの宴会にお座付歌がはじまり街頭で餅つききのねの音をきかして師走気分を盛上げさせるのが、いよいよ

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14
木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月
九紫先勝 かのと み	八白赤口 かのえ たつ	七赤大安 つちのと う	六白仏滅 つちのえ とら	五黄先負 ひのと うし	四緑友引 ひのえ ね	三碧先勝 きのと い	二黒赤口 きのえ いぬ	一白大安 みずのと とり	九紫仏滅 みずのえ さる	八白先負 かのと ひつじ	七赤友引 かのえ うま	六白先勝 つちのと み	五黄赤口 つちのえ たつ	四緑大安 ひのと う	三碧仏滅 ひのえ とら	二黒先負 きのと うし	一白友引 きのえ ね
旧 11.21	旧 11.20	旧 11.19	旧 11.18	旧 11.17	旧 11.16	旧 11.15	旧 11.14	旧 11.13	旧 11.12	旧 11.11	旧 11.10	旧 11.9	旧 11.8	旧 11.7	旧 11.6	旧 11.5	旧 11.4
年越し				官庁御用納め 三りんぼつ				天皇誕生日	冬至				三りんぼつ				年賀郵便特別扱始め
				満月					上弦								

31日
除夜の鐘
(薬王寺など)

なつかれくさしよつず
乃東生とは
漢方薬に使われる
ウツボグサの漢名で
冬至頃に芽を出し
夏至頃に枯れること
からきているそうだ。

24・25日
灯りのオブジェ
(神山町鬼籠野)

23日
ジングルベルマラソン大会
(鳴門市大麻町)



ウツボグサ

三りんぼつとは
由来は不明だが、
いつの頃からか建築に
関わる凶の日と
されている。

大晦日大祓い

さわしかのつのおつる
麋角解
御田納め

ナンテンの実色つく

なつかれくさしよつず
乃東生

こぐま座流星群極大日

さけのつおむらがる
鰻魚群

ふたご座流星群極大日
歳暮
タラ出回る

今 師走の月

昔ほどではないが12月に入ると、人や車の動きも慌ただしく感じる時期で、ぼやぼやしている間に気持ちだけ取り残されそう。全国的に、旧暦の11月8日は、ふいご祭が開催される時期。林

昭和26年12月 徳島新聞連載
阿波歳時記12月の巻より抜粋
著者：絵師・郷土芸能研究家
林鼓浪（1887～1965）

大晦日になると二夜五十日に掛け合うというそがしき。商店では一年中の総決算とあってつい近年まで、かけ取りの丁稚が店名を印した提灯を手にして、夜の更けるまで町々をかけた。今はこんな姿は見られないが、戦時中でも主人と店員が車座になり、そばを食べる習慣は細く長く運が続くという縁起を祝ったもので、出前持ちは阿波特産そばを夜がな夜通し配達し、そこへ除夜の鐘がなり出すと勢見の金刃比羅神社の年越参りの客が大道に雑踏し、遠音神楽の太鼓の音が終夜なりわたって、あけぼのの初光りに新しい年を迎えることになる。さてここで今年の歳時記を終わりたいと思う。



取材デザイン編集
上野昇（のちゃん）
四国大学
生活科学部講師

送風する袋状の道具で、おそらく現在は、機械式で風を送っていると思われる。今でも鋳物業や鉄工所などの関係者は、この時期になると大目が祭られている神社の例大祭に参加しているという。今年こそ余裕を持って過ごしたいと思うが、冬至、クリスマス、除夜の鐘と振り返る間もなく、新年になりそう。今年一年、ご朗読ありがとうございます。



写真：大晦日、おせち料理と年越しそば

鼓浪は今回の記事のメインに取り上げているが、この「ふいご」は存知だろうか。これは、作業時に火力の勢をつけるため空気を